

令和3年11月25日

三重県知事 へ

住所 三重県松阪市八太町614番地

事業計画者 氏名 株式会社 UMEDA
代表取締役 梅田 晃平
電話番号



令和3年10月20日付けで提出した事業計画書について軽微な変更をしたので、三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例第29条第3項の規定により、次のとおり届け出ます。

	変更前	変更後
変更の内容	別紙のとおり	別紙のとおり
変更の理由	協議調整の結果、事業計画に軽微な変更が生じたため。	
変更年月日	令和3年11月18日	

(規格A4版)

備考

- 各欄にその記載事項のすべてを記載することができないときは、同欄に「別紙のとおり」と記載し、別紙を添付してください。
- 変更に係る書類及び図面を添付してください。



別紙（破碎）

変更前	変更後
<p>〔維持管理に関する事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定期的点検、機能検査」及び「点検、検査の記録及び保存」において、定期点検と日常点検の違いが明確に示されていなかった ・「受入時の廃棄物の性状の分析・計量方法」の欄について、廃蛍光ランプについては取り扱わない旨の記載が不足しており、割れていない廃蛍光ランプを受入れるかのような表現となっていた ・「悪臭の防止」にかかる欄について、悪臭の記載が不足していた 	<p>〔維持管理に関する事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定期的点検、機能点検」及び「点検、検査の記録及び保存」において、定期点検はメーカーによる点検、日常点検は自社による点検と明記した ・「受入時の廃棄物の性状の分析・計量方法」の欄について、廃蛍光ランプについては取り扱わない旨の記載が不足しており、割れていない廃蛍光ランプを受入れるかのような表現となっていたものを修正した ・「悪臭の防止」にかかる欄について、悪臭の記載が不足していたため、悪臭の防止に係る記載を追加した
<p>〔構造等の計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛散、流出、悪臭の発散防止」において悪臭の発散防止にかかる記載が不足していた ・集塵装置をオプションで設置する旨の記載が不足していた 	<p>〔構造等の計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛散、流出、悪臭の発散防止」において、悪臭の発散防止にかかる記載を追加 ・集塵装置をオプションで追加した破碎機を屋内に設置することにより粉塵発生を抑止すると修正した。
<p>〔生活環境影響調査書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「施設の処理方式」に、廃蛍光ランプについては取り扱わない旨の記載が不足しており、割れていない廃蛍光ランプを受入れるかのような表現となっていた ・「騒音及び振動」に、重機による騒音及び振動の影響が軽微であるため、破碎機による影響をもって施設全体の騒音・振動値を評価した旨記載が不足していた 	<p>〔生活環境影響調査書〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「施設の処理方式」に、廃蛍光ランプについては取り扱わない旨の記載が不足しており、割れていない廃蛍光ランプを受入れるかのような表現となっていたものを修正した ・「騒音及び振動」に、重機による騒音及び振動の影響が軽微であるため、破碎機による影響をもって施設全体の騒音・振動値を評価した旨記載を追加した
<p>〔2槽式マス図面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画上、2槽マスは設置しないこととしていた ・2槽式マスを設置しない計画だったので、降雨量と流量計算を行っていなかった 	<p>〔2槽式マス図面〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かいプラスチック（万が一油分が発生した場合に備えて油分も）の流出防止のため、2槽マスを設置することに変更した ・2槽式マスの能力が、降雨量に見合うものであることを示す降雨量と流量の計算を行った
<p>〔排水経路図（図面②）〕</p> <p>排水経路に一部誤りがあった</p>	<p>〔排水経路図（図面②）〕</p> <p>再調査の結果、排水経路を図面のとおりに修正</p>

<p>〔公図現況重図（図面⑤）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に色分けなし ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていた <p>〔施設全体配置図（図面⑥）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に色分けなし ・動線と2槽マスの表示なし ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていた <p>〔施設求積図（図面⑦）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に色分けなし ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示なし ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていた ・積替え後の保管場所である廃プラスチック類、紙くず、繊維くず保管場所の仕切りがなかった <p>〔騒音・振動測定位置見取図（図面⑧）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に色分けなし ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示なし <p>〔処理フロー図〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理フローの矢印の向き、処理先に誤りがあった。「屋内保管」から「破砕」に矢印があった。 ・積替え保管の屋内保管の記載（㎡の部分）に誤りがあった 	<p>した</p> <p>〔公図現況重図（図面⑤）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に、積替え保管施設については紫色、破砕施設については緑色に色分けした ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていたものを明確化した <p>〔施設全体配置図（図面⑥）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に、積替え保管施設については紫色、破砕施設については緑色に色分けした ・動線、2槽マスを図面内に記入 ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていたものを明確化した <p>〔施設求積図（図面⑦）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に、積替え保管施設については紫色、破砕施設については緑色に色分けした ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示を記入 ・積替え保管施設の展開場所範囲が不明確となっていたものを明確化した ・積替え後の保管場所である廃プラスチック類、紙くず、繊維くず保管場所の仕切りについて新たに設置することとした <p>〔騒音・振動測定位置見取図（図面⑧）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積替え保管施設と破砕施設に、積替え保管施設については紫色、破砕施設については緑色に色分けした ・廃棄物の受け入れから処理、保管、搬出に至る動線の表示を記入 <p>〔処理フロー図〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理フローの矢印の向き、処理先に修正を加えた。屋内保管の木くずの処理先を(株)津R工場破砕施設と追記した。「屋内保管」から「運搬(株)UMEDA)」に矢印を指向した ・積替え保管の屋内保管の記載（㎡の部分）に誤りがあり、木くず(27㎡)、廃プラ類、紙
--	---

<ul style="list-style-type: none">・積替えと保管の部分が不明確であった。・搬出の際の運搬業者を明確にしていなかった	<p>くず、繊維くず(72 m³)に修正した</p> <ul style="list-style-type: none">・積替えと保管が不明確であった部分を明確化した・搬出の際の運搬業者を(株)UMEDAと表示した
---	--

(別紙)

維持管理に関する事項（破砕処理施設）

維 持 管 理 等 の 計 画	作業方法	作業人数 3人（内訳：投入作業2人、オペレーター1人） 作業時間 8：00～17：00（休憩1時間含む） 添付書類： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（別添— のとおり）		
	受入時の廃棄物の性状の分析・計量方法	マニフェスト、展開検査により性状確認します。 計量は計量器にて行います。 腐敗性有機物が付着し、著しく汚染されたもの、石棉含有産業廃棄物、受入可能品目以外のものについては、受け入れないように注意する。 添付書類： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（別添— のとおり）		
	異常事態時の措置	ただちに施設の運転を停止し、事務所及び関係機関への連絡をするとともに、適切な対応を行います。 添付書類： <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有（別添— 緊急連絡網のとおり）		
	飛散・流出 悪臭の防止	方法 建屋内で作業を行う。また日常の清掃等により飛散・流出を防止する また、腐敗性有機物が付着したものなど、悪臭を発生する廃棄物は取り扱い 回 清掃 1回以上/日 添付書類： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（別添— のとおり）		
	火災発生防止	場内の火気の使用を禁止する。 小型消火器を設置する。 添付書類： <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有（別添— 施設全体配置図のとおり）		
	衛生害虫等の発生防止	方法 発生が予測される場合、適宜薬剤の散布を行います。 添付書類： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（別添— のとおり）		
	騒音・振動 粉じんの防止	騒音・振動について、機器の日常・定期点検を徹底することで予防し、作業についても注意を払います。 粉じんについて、建屋内で作業します。また、作業時に注意を払います。 添付書類： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（別添— のとおり）		
	放流水 排ガスの管理	項目	管理値	測定頻度
		該当なし		
	定期的点検 機能検査	方法 リフト、重機、破砕施設のメーカーにより定期点検を実施します。 回数 概ね3カ月ごと 添付書類： <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（別添— のとおり）		
点検、検査の記録及び保存	記録内容 別添点検実施票により日常点検を行います。 保存 結果は定期点検結果と合わせて5年間保存します 添付書類： <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有（別添— 点検実施票のとおり）			

(原紙)

その他、施設の維持管理に関する計画	
騒音・振動	建屋内全面をコンクリート舗装とし、床面を強固にすることで振動を抑制する。また、破碎機本体を床面でボルト固定する。 機器の日常・定期点検を徹底し、作業についても注意を払うほか、敷地境界において騒音：60dB、振動：60dBを遵守する。 (騒音・振動測定位置見取図及び騒音・振動予測計算書を参照。)
粉じん	粉じんについて、建屋内で作業するとともに、作業時に注意を払うことで防止する。 こまめに清掃を実施することで、砂ぼこりを抑制する。 屋外で保管するコンテナは、必ずシートで被覆する。 事業計画地周囲を高さ概ね2メートルのパネルで囲う。
悪臭	腐敗性有機物が付着したものなど、悪臭を発する廃棄物は取り扱いません。

(別紙)

構造等の計画 (破碎処理施設)

構造等の計画	構造力学上の安全性	材質等 鋼製 (腐食防止用の塗料を塗布済み) 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑩ (破碎機外形図) のとおり)
	処理能力の算定根拠	メーカーより提示。別紙カタログ及び設計計算書参照 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一カタログ のとおり) 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一処理能力計算書のとおりに)
	腐食防止	腐食防止用の塗料が塗布してある 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	飛散、流出、悪臭の発散防止	建屋内(床面コンクリート)で保管・作業を行うことにより、飛散・流出を防止する 屋外保管のコンテナについては、必ずシートで被覆する また、腐敗性有機物が付着したものなど、悪臭を発する廃棄物は取り扱いしません。 作業時は、窓等を閉める 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	騒音・振動及び粉じんの発生防止	騒音・振動の発生を防止するため、施設は床面コンクリート舗装の建屋内に設置し、敷地境界において騒音: 60 dB、振動: 65 dBを遵守する。 粉じん防止については、建屋内で作業するとともに作業時注意する 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑨ (騒音・振動測定位置見取図) のとおり)
	汚水処理施設の概要	処理方式 該当なし (水洗しないため) 処理能力 $m^3/日$ 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	排ガス処理施設の概要	処理方式 該当なし (電動式によるため) 処理能力 m^3_N/h 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	廃棄物の受入設備	位置 図面のとおりに 構造 入口付近に計量設備を設置 建屋内(床面コンクリート)にて保管 規模 図面のとおりに 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑦ (施設配置図①・②) のとおり)
	処理後の廃棄物等の保管施設	位置 図面のとおりに 構造 建屋内(床面コンクリート)にて保管 規模 図面のとおりに 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑦ (施設配置図①・②) のとおり)
	囲い等	事業計画地周囲を鉄製のパネル (高さ概ね2 m) で囲う 施設入口に門扉を設置 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑥ (施設全体配置図) のとおり)
	雨水等の流入防止	建屋内のため雨水の流入はない 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	搬入道路	国道165号線から事業計画地へ搬入 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	消火設備	⑦ 無 (有の場合 その概要) 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑥ (施設全体配置図) のとおり)
	車両足洗設備	有 ⑧ (有の場合 その概要) 添付書類: <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (別添一 のとおり)
	駐車設備	⑨ 無 (有の場合 その概要) 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑥ (施設全体配置図) のとおり)
	管理事務所	⑩ 無 (有の場合 その概要) 添付書類: <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添一図面⑥ (施設全体配置図) のとおり)
	その他、施設の種類ごとに、規則第12条の2に定める構造等の基準の適合方法について記載すること。	
	集塵機、散水設備はないが、破碎機を建屋内に設置することにより粉塵発生を抑制する。 (個別基準 9項1号)	



流体継手

オイルを用いて動力を伝達するクラッチなので、急停止・踏み込み等に対し減速機・モーターへの負荷を軽減できます。



スクリーンリフター

スクリーンの開閉が簡単に行え、作業負荷が低減すると共に、作業員の安全性も向上します。



防音施設

破砕機を囲うように設置し、破砕音・モーター音を吸収・周囲への騒音を低減させます。



ホッパー開閉装置

破砕時の騒音・粉塵・破砕物の飛散の低減に効果的です。



噴霧装置

細かいミストで粉塵を抑え、作業環境を向上させます。



集塵装置

ホッパー内の粉塵を吸引し、粉塵の外部流出を抑えます。屋根付ホッパー、開閉式ホッパーと併用すると効果的です。



レベルセンサー

ホッパー内破砕物の有無を感知し、自動で投入コンベアを起動・停止させることが可能です。



油圧モーター

圧力変動に強く、正逆転を頻繁に行えるモーターだからこも、ゴム等の破砕難物もスムーズに行えます。



ハイプッシャー

プッシャーを高くすることで、噛み込みづらいボリ容器なども、破砕することができます。



空気搬送設備

破砕物を空気搬送することで、破砕後の作業低減と共に破砕能力を向上できます。

インバーター駆動

モーターへの周波数をコントロールできるので、状況に応じ回転数を加減速できるほか、安定したトルクや始動時や過負荷時の電流低減など、環境に優しい駆動方法です。

炎センサー

異物（金属）等を破砕した際の火花などで、火災が発生した際に感知します。



第1章 施設の設置に関する計画等

1-1 施設の設置者の氏名及び住所

氏名 株式会社 UMEDA 代表取締役 梅田晃平
住所 三重県松阪市八太町6 1 4 番地

1-2 施設の設置場所

設置場所 三重県津市中村町字安湯谷 802-1

1-3 設置する施設の種類

産業廃棄物の中間処理施設（破砕）

1-4 施設において処理する廃棄物の種類

廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く)
(上記については、水銀使用製品産業廃棄物を除く)
紙くず、木くず、繊維くず
以上4種類の産業廃棄物の破砕を行う。

1-5 施設の処理能力

破砕施設（1基）	一軸破砕機 UC-75 ウエノテックス
廃プラスチック類	4.402 t / 日（8h）
紙くず	4.638 t / 日（8h）
木くず	4.372 t / 日（8h）
繊維くず	3.384 t / 日（8h）

1-6 施設の処理方式

廃棄物受入の方法

①マニフェストの確認及び②受入時の目視検査、③屋内での展開検査により、廃棄物を確認後、保管場所に受け入れます。

検査の際、受入れ可能産業廃棄物の種類以外の廃棄物、ホッパーに投入可能な大きさを超える廃棄物、腐敗性有機物が付着するなどして著しく汚染した廃棄物は返品します。

また、廃蛍光ランプについては取り扱いません。

処理の方法 一軸破砕処理

1-7 施設の構造及び設備

(1)破砕機

ウエノテックス一軸破砕機 UC-75 を互定式破砕機として用います。

破砕機は、破砕機本体部分、排出用コンベアから構成されており、材質は鋼製です。
鋼製部分には腐食防止用の塗料が塗布してあります。

第 2 章 生活環境影響調査項目の選定

2-1 生活環境影響調査項目

破砕・選別施設における生活環境影響調査項目は、下記の表のとおりとされています。

調査項目	環境影響要因 生活環境影響調査項目	生活	施設排 水の排 出	施設の 稼働	施設から の悪臭の 漏えい	廃棄物運 搬車両の 走行
大気環境	大気質	粉じん		○		
		二酸化窒素(NO ₂)				○
		浮遊粒子状物質(SPM)				○
	騒音	騒音レベル		◎		○
	振動	振動レベル		◎		○
	悪臭	特定悪臭物質濃度または臭気指数			○	
水環境	水質	生物化学的酸素要求量(BOD) または科学的酸素要求量(COD)	○			
		浮遊物質(SS)	○			
		その他必要な項目	○			

これらの調査項目のうち、◎を選定項目とします。

2-2 選定した理由

(1) 騒音及び振動（施設の稼働による影響）

破砕機が稼働することにより、周辺的生活環境に影響が出ることが予想されるため、この項目を選定しました。

使用予定の重機（SUMITOMO）については、低騒音・低振動型、低排ガス、低燃費など、環境に配慮された性能を有しているものであり、また施設から敷地境界までの騒音及び振動の距離減衰及び透過損失により、重機による周辺環境への騒音及び振動による影響は軽微と考えられるため、調査対象から外し、施設全体から予想される騒音・振動値については、破砕機による影響をもって評価した。

2-3 選定しなかった項目及びその理由

(1) 大気質(粉じん)

「施設の稼働」による粉じんについては、破砕機本体及び、廃棄物展開場所が屋内であることと、粉じん発生源から道路まで31.5メートルの距離があり、さらに事業計画地周囲を高さ約2メートルのトタンにより囲むことにより、より高い防塵効果が期待できることなどから、粉じんが施設周辺的生活環境に影響を及ぼすおそれは軽微であると考えられるため、この項目を選定しませんでした。

(2) 大気質 (NO₂・SPM)

「廃棄物運搬車両の走行」による排ガスの影響

廃棄物運搬車両については、「交通量が相当程度変化する主要搬入道路沿道に人家等が存在する場合」に調査の対象とされており、搬入道路（R.165）沿道付近に人家が存在しません。

また、1日の搬入台数が10t車1台ですので、この施設が稼働することによる廃棄物運搬車両の走行による排ガスの影響は、軽微であると考えられるため、この項目は選定から除外しました。

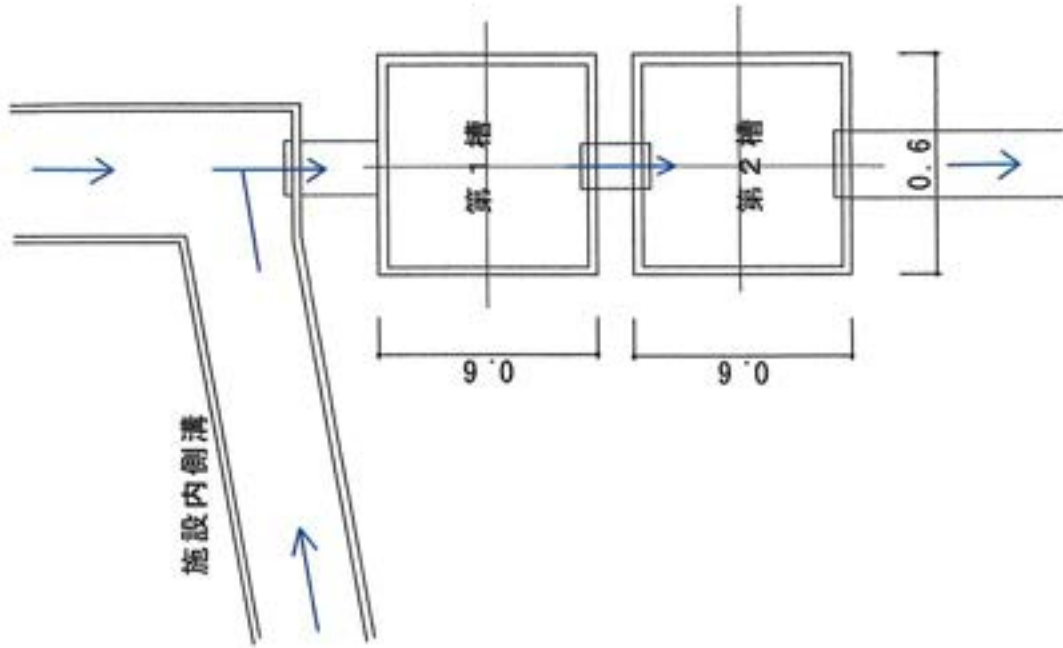
(3) 悪臭

悪臭については、施設からの漏えいによる影響があり、その影響が想定される周辺地域に人家等が存在する場合に調査の対象とされています。

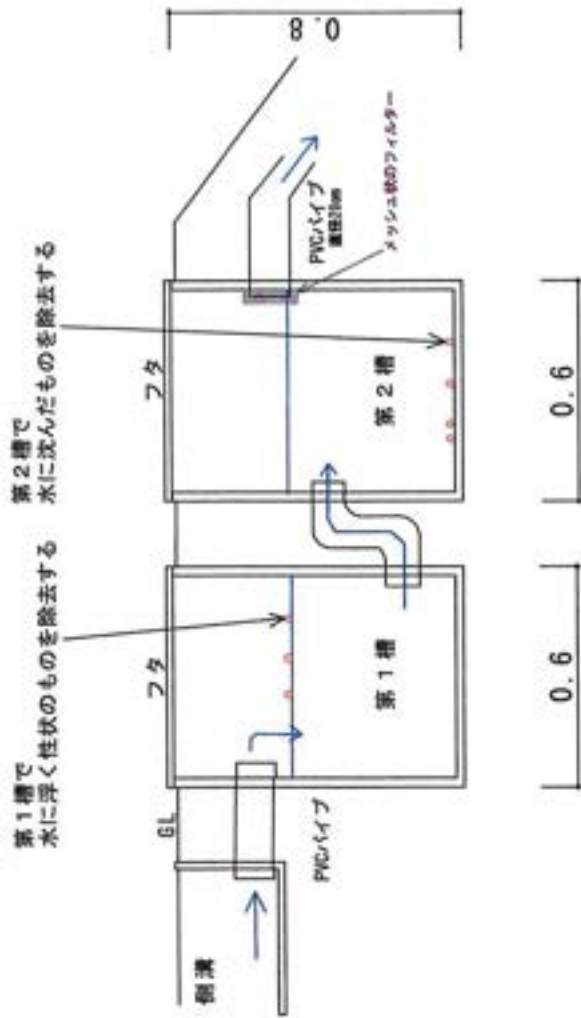
当社事業計画によると、腐敗性有機物の付着した廃棄物その他著しく汚染した廃棄物は取り扱いの対象外となっておりますので、施設の稼働に伴い、悪臭が漏えいすることはないと考えます。

2槽式マス図面

平面図



立面図



(単位: m)

1時間あたりの降雨量（1時間あたりにマスに雨水が流入する量）と、マスからの1時間あたりの排水量をそれぞれ計算し、後者が前者より値が大きいことをもって、マスの機能が維持されることを示します。

(1) 降雨量の計算・・・X

事業計画地における降雨量（最大月平均）は、

$$273.1 \text{ [mm/24h]} \cdots \text{気象庁データに基づく}$$

$$0.2731 \text{ [m/24h]}$$

$$0.0113 \text{ [m/h]}$$

事業計画地の雨量計算対象面積は、2652.6123 m²（事業計画地面積）

よって、事業計画地雨量計算対象面積における降雨量（1h）は、

$$0.0113 \text{ [m/h]} \times 2652.6123 \times 0.85 \text{ (流出係数)} \approx 25.47 \text{ [m}^3\text{/h]}$$

(2) 2槽式マスからの流量（排水量）計算・・・Q

$$Q = A \times V$$

$$V = 1/n \times R^{2/3} \times I^{1/2}$$

Q=流量 [m³/秒]

A=流水断面積 [m²]

V=流速 [m/秒]

n=粗度係数 (=0.015)

R=径深 [m] (A/P)

P=流水の潤辺長 [m]

I=勾配 (分数又は少数)

$$A = 0.1 \times 0.1 \times \pi \quad P = 2\pi \times 0.1$$

$$A = 0.0314 \text{ m}^2 \quad P = 0.628 \text{ m}$$

$$R = A/P = 0.05 \quad I = 0.1$$

$$V = 1/0.015 \times (0.05)^{2/3} \times (0.1)^{1/2}$$

$$V \approx 2.84 \text{ [m/秒]}$$

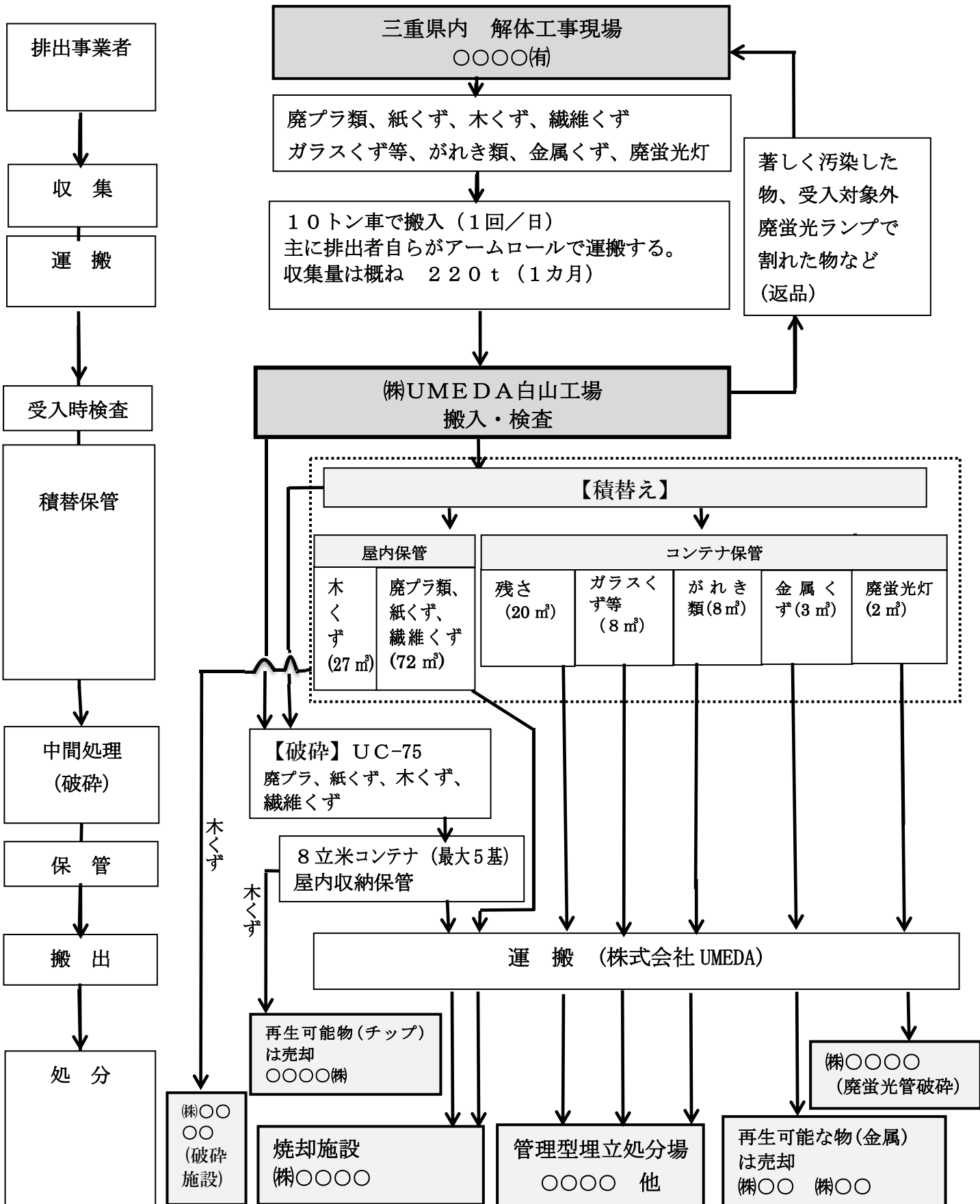
$$A \times V = 0.0314 \times 2.84 \approx 0.089 \text{ m}^3\text{/sec}$$

$$Q = 0.089 \text{ [m}^3\text{/sec]} = 5.34 \text{ [m}^3\text{/min]} = 320.4 \text{ [m}^3\text{/h]}$$

よって、

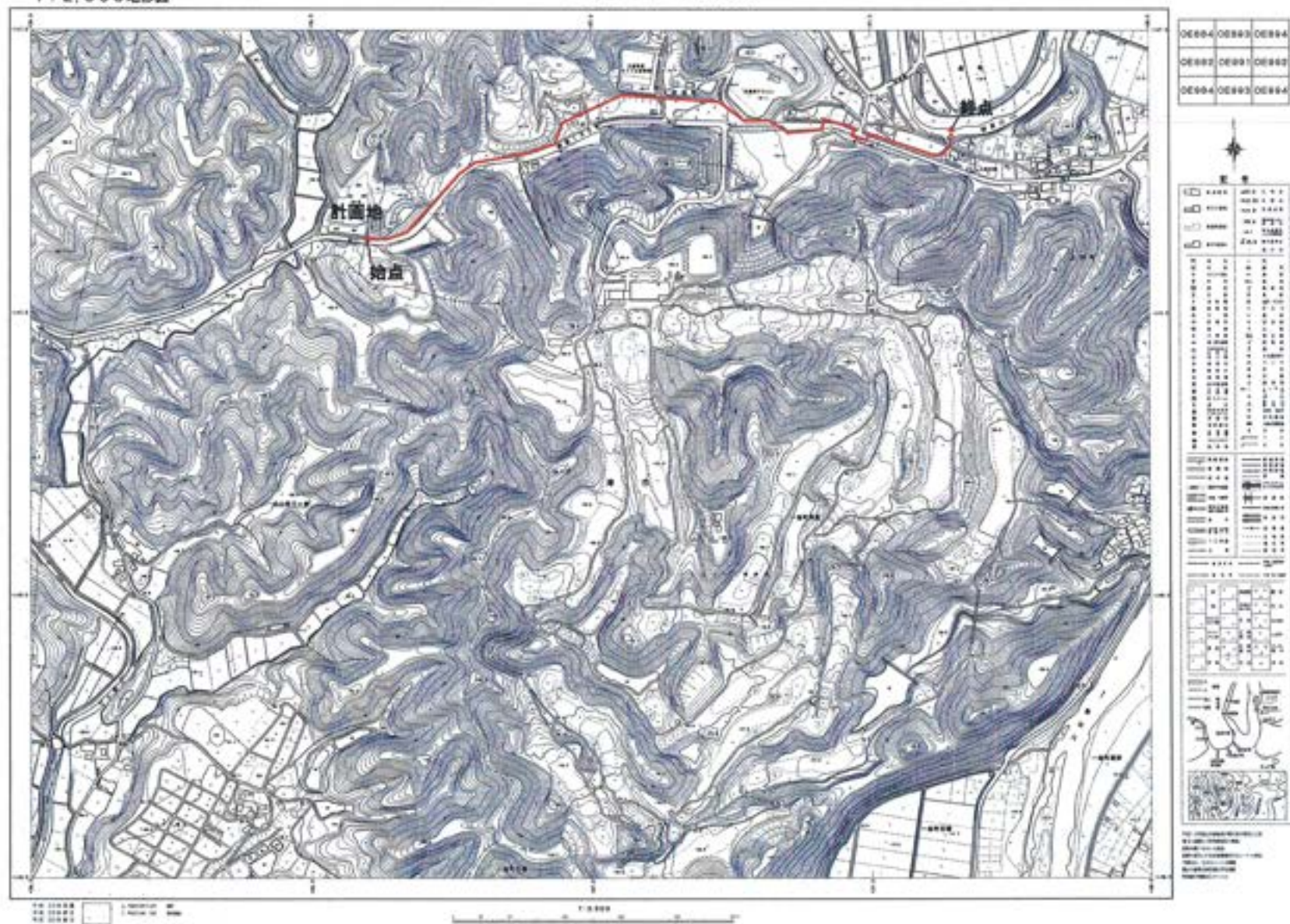
$$Q \text{ (排水量/1h)} > X \text{ (降雨量/1h)}$$

産業廃棄物処理フロー図



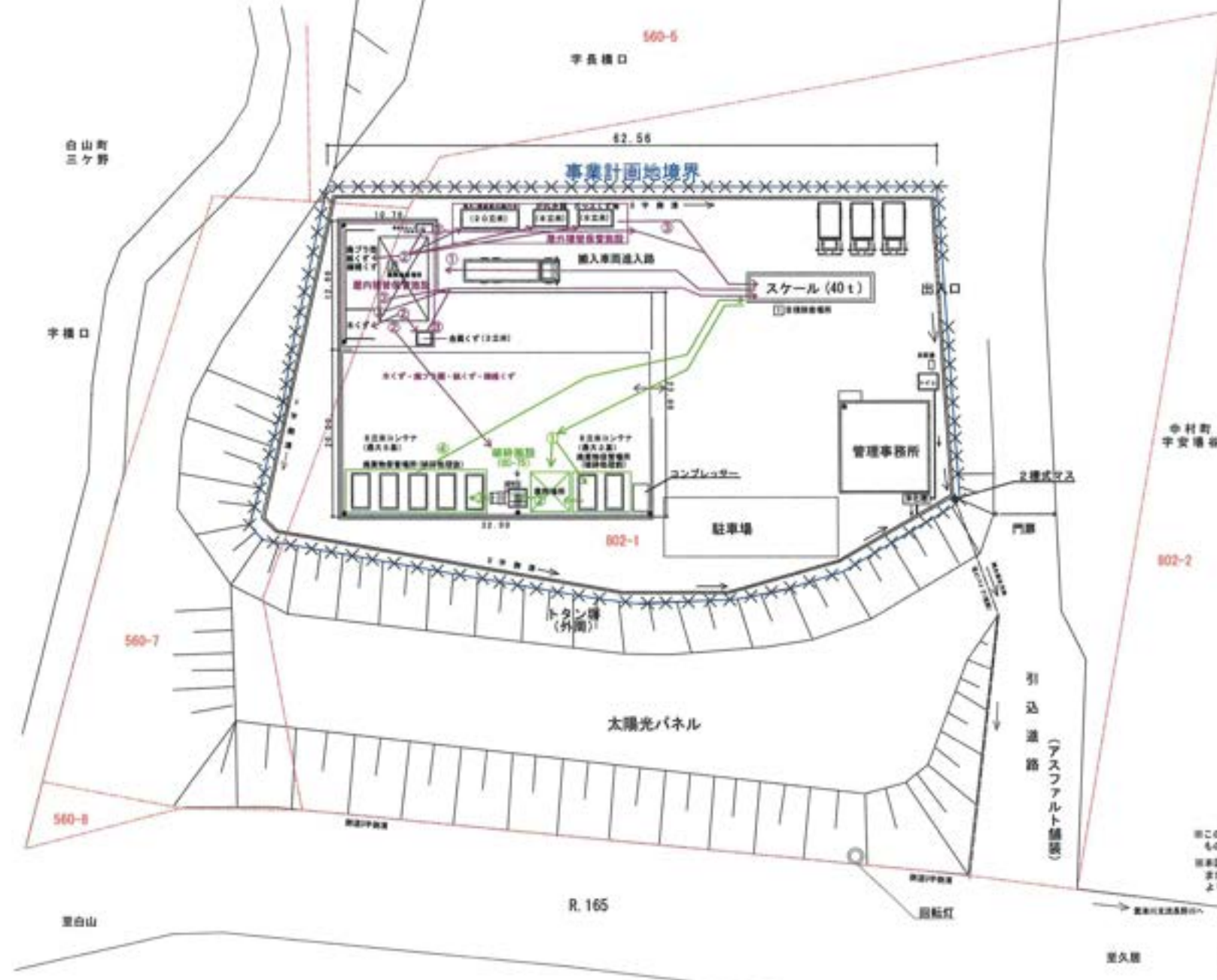
排水経路図

1:2,500地形図



雨水の排水経路図は、始点（施設）から終点（河川）までの間に、雨水の流れを地形的・物理的に妨げるものがないことを示すことを一つの目的として作成したものであり、この図面は雨水が流れる経路について、その概要をイメージしやすくするために示したものです。
 実際の流路は天候等の諸条件、将来流路上における工事等により多少変動する場合があります。

施設全体配置図



● 検査方法 (以下の1種類にわたって検査を実施する。)

- 車検による検査
- 車検以外の検査

○ 検査基準

当該施設が対象となる以外の用途兼用施設については、事前に進入基準に適合を確認し、進入を認める。当該施設に専用トラック等の利用し、当該用途兼用施設については、進入が認められない旨を通知する。当該施設、専用トラック等の利用の検査が認められていない場合は、事前に通知するように入札に留意する。当該施設の利用、用途兼用施設が利用し、他の用途兼用の施設となる場合は、留意する。

802-1

802-2

保管積替のエリア、動線：紫色で表示
中間処理のエリア、動線：緑色で表示

凡例

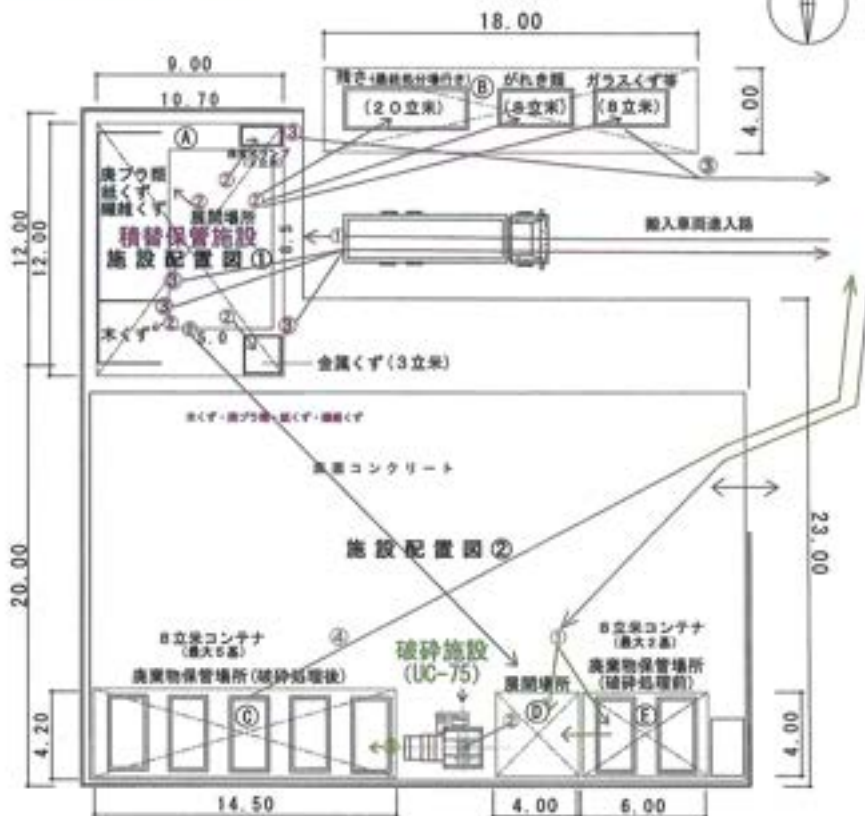
- 小型消火器
- 排水等排水方向

※この図面は、建築基準法等の法令に定める建築計画に基づき作成したものであり、隣接地との境界を示すものではありません。また、土地の加工についても実際の土地の形状、地質、地盤高の条件により、施工計画に影響を及ぼす可能性があります。

所在・地番	津市白山町三ヶ野字長樋口560-5、560-7 津市中村町字安場谷802-1
都市計画の区分	都市計画区域外 縮尺 1/400
申請人	株式会社 INEDA
作成者	行政書士 行田 聖 洋 (令和3年9月10日作成)

(単位：メートル)

保管場所のエリアと動線：茶色の数字、矢印で表示
 中間処理のエリアと動線：緑色の数字、矢印で表示



【求積】

- ① $12.00 \times 9.00 = 108.00$ 平米
(内、展開場所 = 42.5 平米)
- ② $18.00 \times 4.00 = 72.00$ 平米

【求積】

- ③ $14.50 \times 4.20 = 60.90$ 平米
- ④ $4.00 \times 4.00 = 16.00$ 平米
- ⑤ $4.00 \times 6.00 = 24.00$ 平米

8 立米コンテナ



【破砕前保管場所】

$3.60(L) \times 1.17(H) \times 1.90(W) \times 8.00$ 立米
 8.00×2 基 (最大) = 16.00 立米

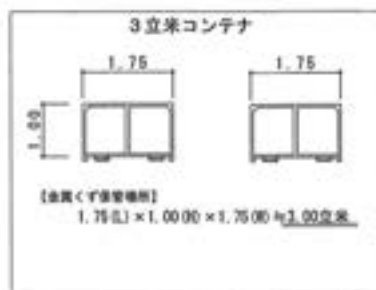
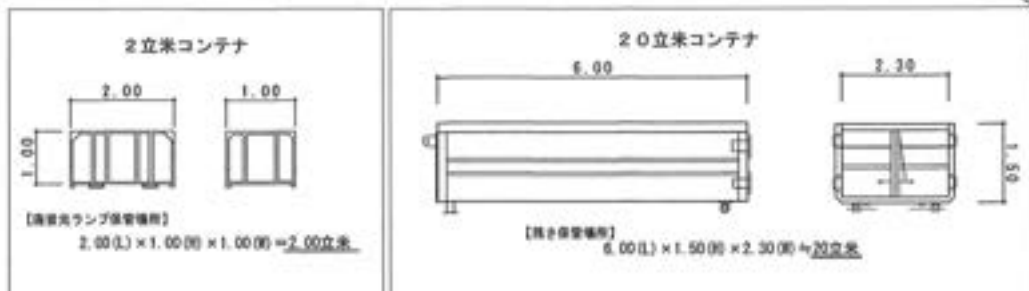
【破砕後保管場所】

$3.60(L) \times 1.17(H) \times 1.90(W) \times 8.00$ 立米
 8.00×5 基 (最大) = 40.00 立米

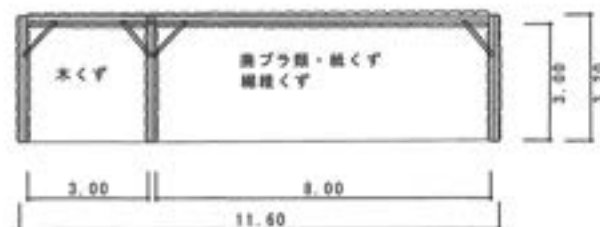
図面名	施設配置図①・②
縮尺	1/250
申請人	株式会社 UMEDA
作成者	行政書士 行岡 聖洋 (令和2年11月1日作成)

(単位・メートル)

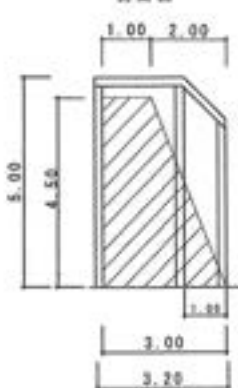
⑦



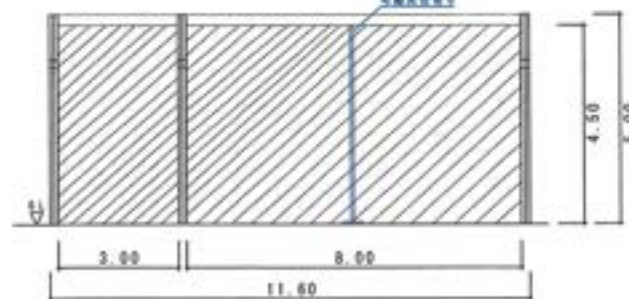
屋内積替保管場所
 平面図



側面図



正面図



【求積】

木くず
 $1.00(L) \times 4.50(H) \times 3.00(W) = 13.5$
 $2.00(L) \times 4.50(H) \times 3.00(W) \times 2 = 13.5$
 $13.5 + 13.5 = 27.00$ 立米

【求積】

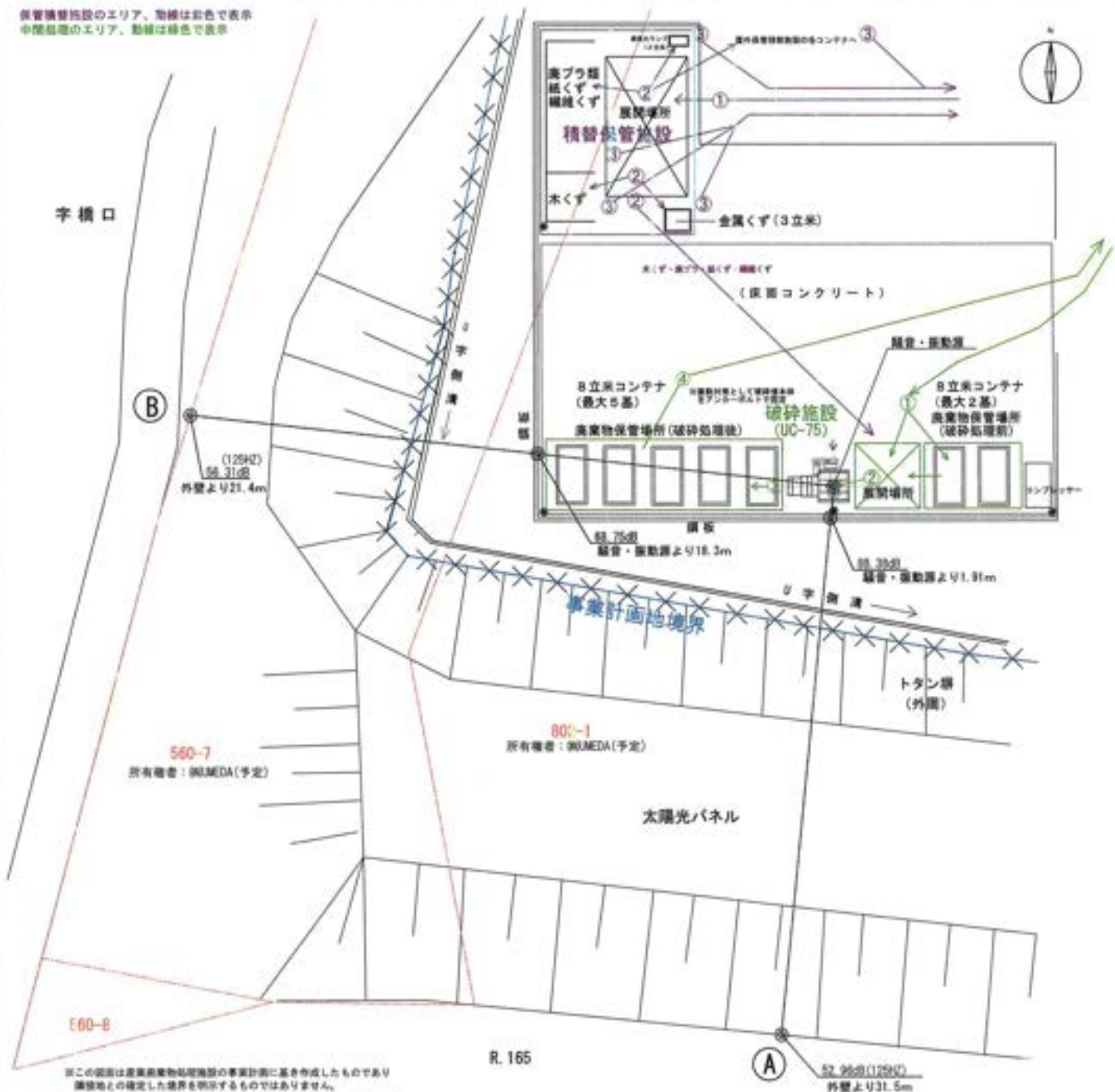
廃プラ類
 紙くず
 繊維くず
 $1.00(L) \times 4.50(H) \times 8.00(W) = 36.00$
 $2.00(L) \times 4.50(H) \times 8.00(W) \times 2 = 36.00$
 $36.00 + 36.00 = 72.00$ 立米

内訳 廃プラ類 24.00立米
 紙くず 24.00立米
 繊維くず 24.00立米
 木くず 27.00立米

図面名	施設求積図
縮尺	1/125
申請人	株式会社 UMEDA
作成者	行政書士 行岡 聖洋 (令和2年11月1日作成)

(単位・メートル)

騒音・振動測定位置見取図



騒音予測計算書

条件
 本機の機側1m地点における最大騒音値(定常作業時) = 94 [dB]
 以下、r1 = 機側1mにおける騒音値 = 94 [dB]
 r2 = 騒音源から測点までの距離 (m)
 距離減衰式を $T_L = 20.00 (r_2 / r_1)$ として計算
 透音板(鋼板1ミリ厚)の透音係数 $m [kg/m^2] = 8.2 [kg/m^2]$
 また、透過損失による減衰式を $T_L = 20.00 (f \times m / 131.8) - 10.00 \ln (1 + f \times m / 131.8)$ として計算
 周波数125 [Hz]、250 [Hz]、500 [Hz] について算出

【測点①】
 $94 [dB] - 20.00 \log (1.91 / 1) = 88.38 [dB]$
 (1) $f = 125 [Hz]$
 $T_L = 20.00 \log (125 \times 8.2 / 131.8) - 10.00 \log (\ln (1 + 125 \times 8.2 / 131.8)^2) + 11.08 [dB]$
 $88.38 - 11.08 = 77.30 [dB]$
 $77.30 [dB] - 20.00 \log (31.5 / 1.91) = 52.86 [dB]$
 (2) $f = 250 [Hz]$
 $T_L = 20.00 \log (250 \times 8.2 / 131.8) - 10.00 \log (\ln (1 + 250 \times 8.2 / 131.8)^2) + 14.88 [dB]$
 $88.38 - 14.88 = 73.50 [dB]$
 $73.50 [dB] - 20.00 \log (31.5 / 1.91) = 49.18 [dB]$
 (3) $f = 500 [Hz]$
 $T_L = 20.00 \log (500 \times 8.2 / 131.8) - 10.00 \log (\ln (1 + 500 \times 8.2 / 131.8)^2) + 19.05 [dB]$
 $88.38 - 19.05 = 69.33 [dB]$
 $69.33 [dB] - 20.00 \log (31.5 / 1.91) = 44.99 [dB]$

【測点②】
 $94 [dB] - 20.00 \log (18.30 / 1) = 68.75 [dB]$
 (1) $f = 125 [Hz]$
 $T_L = 20.00 \log (125 \times 8.2 / 131.8) - 10.00 \log (\ln (1 + 125 \times 8.2 / 131.8)^2) + 11.08 [dB]$
 $68.75 - 11.08 = 57.67 [dB]$
 $57.67 [dB] - 20.00 \log (21.4 / 18.3) = 56.21 [dB]$
 (2) $f = 250 [Hz]$
 $T_L = 20.00 \log (250 \times 8.2 / 131.8) - 10.00 \log (\ln (1 + 250 \times 8.2 / 131.8)^2) + 14.88 [dB]$
 $68.75 - 14.88 = 53.87 [dB]$
 $53.87 [dB] - 20.00 \log (21.4 / 18.3) = 52.51 [dB]$
 (3) $f = 500 [Hz]$
 $T_L = 20.00 \log (500 \times 8.2 / 131.8) - 10.00 \log (\ln (1 + 500 \times 8.2 / 131.8)^2) + 19.05 [dB]$
 $68.75 - 19.05 = 49.70 [dB]$
 $49.70 [dB] - 20.00 \log (21.4 / 18.3) = 48.24 [dB]$

振動予測計算書
 (振動予測計算においては、測点別は別表します)

条件
 本機の機側1m地点における最大振動値(定常作業時) = 65 [dB]
 以下、r1 = 機側1mにおける振動値 = 65.00 [dB]
 r2 = 振動源から測点までの距離33.41 [m]
 距離減衰式を $T_L = 20.00 (r_2 / r_1)$ として計算

【測点③】 $65.00 - 20.00 \log (33.41 / 1) = 24.52 [dB]$

図面名	騒音・振動測定位置見取図
縮尺	1/250
申請人	株式会社UMEDA
作成者	行政書士 行岡 聖 洋 (R.3.9.10作製)

※この図面は産業廃棄物処理施設の事業計画に基づき作成したものであり、隣接地との確定した境界を示すものではありません。
 ※本図面の土地の形状と実際の土地の形状が多少異なる可能性があります。また、土地の加工についても実際の土地の形状、地質、地盤高等の条件により、施工計画に影響を及ぼす可能性があります。

隣接敷地における騒音・振動値については、廃棄物を搬送する際に業務を使用する程度であり、騒音値に比べて使用頻度が低く、影響が軽微であると考えられます。従って、隣接地による予測値をもって参照します。